

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 1 2 月 2 0 日
Date of Application:

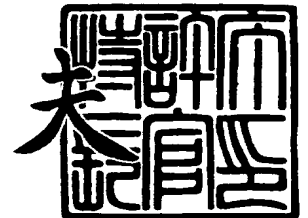
出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 3 7 0 1 2 8
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 2 - 3 7 0 1 2 8]

出 願 人 株式会社村上開明堂
Applicant(s):

2 0 0 3 年 1 0 月 7 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康



出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 8 2 6 9 3

【書類名】 特許願

【整理番号】 02031JP

【提出日】 平成14年12月20日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B60R 1/06
B60Q 1/24
B60Q 1/26
B60Q 1/34

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県藤枝市兵太夫 7 4 8 番地
株式会社村上開明堂藤枝事業所内

【氏名】 鈴木 久也

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県藤枝市兵太夫 7 4 8 番地
株式会社村上開明堂藤枝事業所内

【氏名】 山名 徹

【特許出願人】

【識別番号】 000148689

【氏名又は名称】 株式会社村上開明堂

【代理人】

【識別番号】 100113125

【弁理士】

【氏名又は名称】 須崎 正士

【電話番号】 03-5211-2488

【代理人】

【識別番号】 100064414

【弁理士】

【氏名又は名称】 磯野 道造

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 015392

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0208637

【包括委任状番号】 0106143

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 アウターミラー

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 自動車の車体の側面からその側方に向かって張り出すミラーベースと、

当該ミラーベースに吊設されるミラーハウジングとを備えるアウターミラーであって、

前記ミラーベースには、発光体から照射される光を拡散するベース側レンズカバーが設けられ、

前記発光体は、前記ミラーベース又は前記車体に設けられていることを特徴とするアウターミラー。

【請求項 2】 前記ベース側レンズカバーが、前記ミラーベースの前面および後面の少なくとも一方に配設されていることを特徴とする請求項 1 に記載のアウターミラー。

【請求項 3】 前記ミラーハウジングに、前記発光体から照射される光を拡散するハウジング側レンズカバーが設けられていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載のアウターミラー。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、自動車のサイドドア付近に付設されるアウターミラーに関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

従来、格納式のアウターミラーは、図 6 に示すように、車体の側面からその側方に向かって張り出すミラーベース 1 1 0 と、このミラーベース 1 1 0 上に固定されるシャフト 1 4 0 と、このシャフト 1 4 0 に回動可能に取り付けられるミラーハウジング 1 3 0 と、このミラーハウジング 1 3 0 の後面開口部に取り付けられるミラー 1 3 7 とを主要部として構成されている。また、ミラーハウジング 1 3 0 の内部には、ミラーハウジング 1 3 0 を保持するフレーム 1 3 1 が取り付け

られ、フレーム 131 にはミラー 137 の鏡面の向きを調節するアクチュエータ 132 やミラーハウジング 130 を格納あるいは使用位置へ復帰させるための駆動ユニット 133 などが装着される。ここで、駆動ユニット 133 は、シャフト 140 に装着される減速機 134 と駆動力を発生させるモータ 135 とから構成されており、モータ 135 の駆動力は減速機 134 を介してシャフト 140 に伝達される。そして、モータ 135 を駆動させるとミラーハウジング 130 がシャフト 140 を中心として回転し、モータ 135 の回転方向を適宜制御することで、ミラーハウジング 130 の格納と使用位置への復帰とが行われる。

【0003】

ところで、近年では、車体の側方に突出して設けられるというアウターミラーの構造上の特徴を活かして、足元やドアノブ付近を照らす照射ランプやウインカー（ターンシグナルランプ）といった照明装置をミラーハウジングに装着したアウターミラーが提案されている（例えば、特許文献 1 および特許文献 2 参照）。

【0004】

この場合、照明装置へ電源を供給するためのワイヤーハーネスは、シャフトを利用して配索されるが、当該シャフト内へ挿通可能なワイヤーハーネスの本数は、シャフトの内径によって制限されるため、当該照明装置用のワイヤーハーネスが増えた分だけミラーハウジング内に組み込まれる各種部品の機能を限定せざるをえない場合があり、また、組立作業にも手間を要する。

【0005】

このような問題点は、例えば、特許文献 3 に開示されているアウターミラーのように、照明装置等をミラーベースに装着することで解決することができる。すなわち、照明装置等をミラーベースに装着すれば、ワイヤーハーネスをミラーハウジングまで配索する必要がなくなるので、組立作業が容易になる。

【0006】

【特許文献 1】

実開平 3-52250 号公報（第 1 頁，第 1 図，第 4 図）

【特許文献 2】

特開平 7-228194 号公報（第 2 図）

【特許文献 3】

特開平 8 - 3 2 4 3 4 2 号公報（第 2 - 3 頁，第 1 図）

【0 0 0 7】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、特許文献 3 に開示されたアウターミラーは、ミラーベースがミラーハウジングの下側に位置する構成であるため、当該ミラーベースに照明装置等を装着すると、当該照明装置は必然的にミラーハウジングの下側に位置することになる。したがって、ウインカーやストップランプなど高い視認性が要求される照明装置を単にミラーベースに装着したのでは、特にドアミラーよりも高い位置から視認する場合に、ミラーハウジングが邪魔になって十分な視認性を確保できない恐れがある。

【0 0 0 8】

そこで、本発明は、ウインカーやストップランプなどの照明装置が装着されているアウターミラーであって、当該照明装置を装着してもミラーハウジング内に組み込まれる各種部品の機能を制限する必要がなく、かつ、容易に組み立てることができ、さらには、当該照明装置の第三者からの視認性を十分に確保することのできるアウターミラーを提供することを課題とする。

【0 0 0 9】**【課題を解決するための手段】**

このような課題を解決するために、請求項 1 の発明は、車体の側面からその側方に向かって張り出すミラーベースと、当該ミラーベースに吊設されるミラーハウジングとを備えるアウターミラーであって、前記ミラーベースには、発光体から照射される光を拡散するベース側レンズカバーが設けられ、前記発光体は、前記ミラーベース又は前記車体に設けられていることを特徴とする。

【0 0 1 0】

このようなアウターミラーによると、ミラーハウジングの上側に位置するミラーベースに発光体から照射される光を拡散するベース側レンズカバーが設けられているので、発光体から照射される光の視認性が格段に向上する。また、発光体がミラーベース又は車体に設けられ、この発光体に電力を供給するためのワイヤ

ハーネスをミラーハウジングまで配索する必要がないので、組立作業が容易になる。

なお、ミラーハウジングにウインカーを装備させた従来のアウターミラーでは、ミラーの視認性を向上させるべく運転席側と助手席側とでミラーハウジングのセット角を変えると、結果としてウインカーが左右非対称に配置されてしまい、ウインカーを車体の両側に対称に配置しなければならないというわが国の法規の要件を満たすことができないが、本発明のアウターミラーでは、運転席側と助手席側とでミラーハウジングのセット角が異なる場合であっても、ミラーベースを左右対称に配置することで当該法規の要件を満たすことができる。

【0011】

請求項2の発明は、請求項1に記載のアウターミラーであって、前記ベース側レンズカバーは、前記ミラーベースの前面および後面の少なくとも一方に配設されていることを特徴とする。

【0012】

このようなアウターミラーによると、ベース側レンズカバーがミラーベースの前面および後面の少なくとも一方に配設されているので、発光体から照射される光を車体の前方もしくは後方から確実に視認することができる。

【0013】

請求項3の発明は、請求項1又は請求項2に記載のアウターミラーであって、前記ミラーハウジングに、前記発光体から照射される光を拡散するハウジング側レンズカバーが設けられていることを特徴とする。

【0014】

このようなアウターミラーによると、ミラーベース又は車体に設けられた発光体から照射される光がミラーハウジング側でも拡散するので、ミラーハウジングに発光体を設けなくても、当該ミラーハウジングをウインカーやストップランプとして機能させることができる。

【0015】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を、添付した図面を参照して詳細に説明する。なお

、以下の説明において、「前後」，「左右」，「上下」は、アウターミラーを車体に取り付けた状態を基準とする。

【0 0 1 6】

(第一の実施形態)

第一の実施形態に係るアウターミラーは、図 1 に示すように、自動車の車体 S のサイドドア S 1 に付設されるいわゆるドアミラーであり、サイドドア S 1 の側面からその側方に向かって張り出すミラーベース 1 0 と、このミラーベース 1 0 の下側に吊設されるミラーハウジング 3 0 とから構成されている。また、ミラーハウジング 3 0 の後面開口部に後方視認用のミラー 3 7 (図 2 参照) が配設され、ミラーベース 1 0 に発光ユニット 2 0 が設けられている。なお、以下では、発光ユニット 2 0 をウインカー (ターンシグナルランプ) やハザードランプとして機能させる場合を例に説明する。

【0 0 1 7】

また、本実施形態に係るアウターミラーは電動格納式であり、ミラーハウジング 3 0 は、ミラーベース 1 0 の下面に固定されたシャフト 4 0 (図 2 参照) に対して回動可能に取り付けられている。

【0 0 1 8】

ミラーベース 1 0 は、本実施形態では、合成樹脂製であり、図 2 に示すように、サイドドア S 1 の前端部に形成された取付座 S 1 1 に固定される。また、ミラーベース 1 0 は、上面が開口するベース本体 1 1 と、このベース本体 1 1 の上面開口部に覆設されるカバー 1 2 とから構成され、ベース本体 1 1 とカバー 1 2 との間に発光ユニット 2 0 が設けられる。

【0 0 1 9】

ベース本体 1 1 は、底壁 1 1 b とこの底壁 1 1 b の周縁から上方に向かって立ち上がる側壁 1 1 a とから構成される。また、側壁 1 1 a の車体 S 側の面には、突起部 1 1 c と外周面にネジ山が形成された円筒状の固定部 1 1 d とが突出して形成され、底壁 1 1 b には導出孔 1 1 e とボス孔 1 1 f とが形成されている。

【0 0 2 0】

カバー 1 2 には、その内側面に掛止爪 1 2 a とボス孔 1 2 b とが突出して形成

されている。カバー 12 をベース本体 11 に取り付けるには、掛止爪 12a をベース本体 11 の側壁 11a の内面に掛止するとともに、ベース本体 11 の下面側からボス孔 12b にビス B3 を螺入すればよい。

【0021】

発光ユニット 20 は、図 2 に示すように、内部が中空に形成されたベース側レンズカバー 21 と、このベース側レンズカバー 21 の内部に設けられた発光体 22 と、ベース側レンズカバー 21 に取り付けられた固定板 24 とから構成されている。

【0022】

ベース側レンズカバー 21 は、発光体 22 から照射される光を拡散するものであり、透明又は半透明の合成樹脂やガラスなどから形成され、略 U 字形状を呈している。すなわち、ベース側レンズカバー 21 は、ミラーベース 10 の突出端面 10a（図 1 参照）、前面および後面に配設されることになる。なお、ベース側レンズカバー 21 の形態は、図示のものに限定されることはなく、例えば、図示は省略するが、ベース側レンズカバーを平面視略 L 字形状または略 J 字形状に形成して、ミラーベース 10 の突出端面 10a と前面（後面）とに配設してもよい。また、ベース側レンズカバーを突出端面 10a のみに配設してもよく、さらには、前面および後面のそれぞれにベース側レンズカバーを配設してもよい。

【0023】

発光体 22 は、発光ダイオードや電球などであり、運転者が図示しないターンシグナルスイッチを操作すると、これに連動して点滅動作を繰り返す。また、発光体 22 に電力等を供給するワイヤーハーネス 23 は、ミラーベース 10 の固定部 11d から車体 S の内部に導出され、図示しない電源やターンシグナルスイッチ等に接続される。

【0024】

ミラーハウジング 30 は、図 2 に示すように、シャフト 40 を介してミラーベース 10 の下側に吊設される。本実施形態では、ミラーハウジング 30 は、上面および後面が開口する合成樹脂製の下ハウジング 31 と、サブアッセンブリ 32 とから構成されている。

【0025】

サブアッセンブリ 32 を下ハウジング 31 に取り付けるには、サブアッセンブリ 32 の下側から下ハウジング 31 を覆い被せるとともに、上ハウジング 33 側から下ハウジング 31 の取付片 31a にビス B1 を螺入すればよい。なお、ミラーハウジング 30 の寸法・形状等は、デザイン等に応じて変更可能であり、図示のものに限定されることはない。

【0026】

なお、詳細な説明は省略するが、図 2 に示すように、サブアッセンブリ 32 は、下ハウジング 31 の上面の開口部に覆設される合成樹脂製の上ハウジング 33、ミラーハウジング 30 を格納あるいは使用位置へ復帰させるための駆動ユニット 34 およびミラーアッセンブリ 35 をフレーム 36 に組み付けて構成されている。また、ミラーアッセンブリ 35 は、後方視認用のミラー 37 と、このミラー 37 の鏡面の向きを調節するアクチュエータ 38 とから構成されている。

【0027】

駆動ユニット 34 は、図示は省略するが、シャフト 40 に装着される減速機と駆動力を発生させるモータとを備え、モータの駆動力は減速機を介してシャフト 40 に伝達される。そして、当該モータを駆動させるとミラーハウジング 30 がシャフト 40 を中心として回転し、モータの回転方向を適宜制御することでミラーハウジング 30 の格納と使用位置への復帰とが行われる。また、アクチュエータ 38 は、図示は省略するが、ミラー 37 の上下方向の向きを調節するモータと左右方向の向きを調節するモータとを備え、当該各モータの回転方向を適宜制御することでミラー 37 の鏡面の向きが調節される。

【0028】

なお、駆動ユニット 34 およびアクチュエータ 38 へ電源を供給するためのワイヤーハーネス 39 は、シャフト 40 の内部を利用して配索される。すなわち、ワイヤーハーネス 39 は、シャフト 40 の内部を通して、ミラーベース 10 の導出孔 11e からミラーベース 10 の内部に導出され、さらに、ミラーベース 10 の内部から固定部 11d を通って車体 S の内部に導出され、図示しないコントロールユニットに接続される。

【0029】

次に、本実施形態に係るアウターミラーの組立方法を、図2を参照して説明する。

【0030】

まず、フレーム36に駆動ユニット34を組み付けたうえで、フレーム36に上ハウジング32とミラーアッセンブリ35とを組み付けてサブアッセンブリ32を構成する。また、駆動ユニット34にシャフト40を取り付けておき、ワイヤーハーネス39はシャフト40を利用して外部に導出させておく。

【0031】

次に、サブアッセンブリ32の下側から下ハウジング31を覆い被せ、下ハウジング31の上面開口部に上ハウジング33を位置させたうえで下ハウジング31と上ハウジング33とをビスB1で一体にしてミラーハウジング30を構成する。

【0032】

続いて、ベース本体11の底壁11bの導出孔11eにワイヤーハーネス39を挿通させたうえで、底壁11bの下面にシャフト40の基部40aを当接させ、さらにベース本体11の側壁11aの上面に発光ユニット20を載置する。そして、シャフト40の基部40aに形成されたビス孔40b、ベース本体11の底壁11bのボス孔11f、発光ユニット20の固定板24に形成されたビス孔24aの位置合わせをした上で、発光ユニット20の固定板24の上方からビスB2を螺入して、シャフト40、ベース本体11および発光ユニット20を一体にする。このとき、発光体22に電力を供給するためのワイヤーハーネス23は、ベース本体11の固定部11dから車体Sの内部に導出させるだけでよく、発光体22用のワイヤーハーネス23をシャフト40に挿通する必要がないので、配索作業が容易である。また、発光体22用のワイヤーハーネス23を配索するに際し、ワイヤーハーネス23をシャフト40に挿通する必要がないので、シャフト40の内径やシャフト40に挿通されている他のワイヤーハーネス39の太さや本数を考慮する必要がなく、したがって、ワイヤーハーネス39の太さや本数を制限する必要もない。すなわち、発光体ユニット20によって、ミラーハウ

ジング 30 内に組み込まれている他の部品の機能が制限されることはない。

【0033】

その後、ワイヤーハーネス 23, 39 を固定部 11 d から外部に導出させたいう
えで、ベース本体 11 にカバー 12 を覆い被せ、ベース本体 11 の下側からビス
B3 を螺入して、ベース本体 11 とカバー 12 とを一体にする。

【0034】

最後に、ベース本体 11 の固定部 11 d から導出しているワイヤーハーネス 2
3, 39 をサイドドア S1 の取付座 S11 に形成された導出孔 S12 から車体 S
内部に導出させたいうえで、サイドドア S1 の取付座 S11 に形成された導出孔 S
12 および挿通孔 S13 に、ベース本体 11 の固定部 11 d および突起部 11 c
をそれぞれ挿入し、取付座 S11 の内側に突出した固定部 11 d をナット N で締
結すると、アウターミラーの車体 S への取り付けが完了する。

【0035】

本実施形態に係るアウターミラーによると、図 1 に示すように、ミラーベース
10 がミラーハウジング 30 の上側に位置することになるので、ミラーベース 1
0 に設けた発光ユニット 20（発光体 22）から照射される光の視認性が格段に
向上する。

【0036】

また、図 1 に示すように、ベース側レンズカバー 21 がミラーベース 10 の突
出端面 10 a、前面および後面に設けられているので、発光体 22 から照射され
る光を車体 S の前方もしくは後方から確実に視認することができる。

【0037】

なお、わが国の法規では、ウインカーを車体の両側に対称に配置しなければな
らないが、本実施形態に係るアウターミラーにおいてこの要件を満たすには、図
3（a）（b）に示すように、ミラーベース 10 を左右対称に配置すればよく、
ミラーハウジング 30 のセット角は、運転席側と助手席側とで違っても差し支え
ない（図 3（b）参照）。運転席側と助手席側とでセット角を変えることで、ア
クチュエータ 38 の調節幅を小さくすることができる。すなわち、アクチュエー
タ 38 を駆動させるために要する空間を小さくすることができるので、ミラーハ

ウジング 3 0 の設計の自由度が増す。

【 0 0 3 8 】

また、ミラーベース 1 0 に発光ユニット 2 0 を設けたので、ミラーハウジング 3 0 の位置（格納位置、使用位置）にかかわらず、ウインカー又はハザードランプとして機能する。すなわち、例えば停車時などミラーハウジング 3 0 を格納したときであっても、発光ユニット 2 0 の位置が変わることがないので、ウインカー又はハザードランプとしての機能が損なわれることがない。

【 0 0 3 9 】

（第二の実施形態）

第二の実施形態に係るアウターミラーは、図 4 に示すように、ミラーハウジング 3 0 （上ハウジング 3 2）の上面にハウジング側レンズカバー 2 5 を設けたものである。

【 0 0 4 0 】

なお、ミラーベース 1 0、発光ユニット 2 0、ミラーハウジング 3 0 等の構成は、前記した第一の実施形態に係るアウターミラーと同様であるので詳細な説明は省略する。

【 0 0 4 1 】

ハウジング側レンズカバー 2 5 は、透明又は半透明の合成樹脂やガラスなどから形成され、ミラーベース 1 0（発光ユニット 2 0）の内部に設けられている発光体 2 2 から照射される光を拡散する。また、ハウジング側レンズカバー 2 5 の車体 S 側の端面は、ミラーハウジング 3 0 が使用状態にあるときに、発光ユニット 2 0 の突出端面 1 0 a と近接もしくは当接する。

【 0 0 4 2 】

第二の実施形態に係るアウターミラーによると、ミラーベース 1 0 に設けられた発光体 2 2 から照射される光がミラーハウジング 3 0 側でも拡散するので、ミラーハウジング 3 0 に発光体を設けなくても、当該ミラーハウジング 3 0 をウインカーとして機能させることができる。

【 0 0 4 3 】

また、ミラーハウジング 3 0 が使用状態にあるときは、発光ユニット 2 0 とハ

ウジング 30 とが一体となってウインカーとして機能し、停車時などにハザードランプとして機能する。さらに、ミラーハウジング 30 を格納したときには、発光ユニット 20 が単独でハザードランプとして機能する。すなわち、本実施形態に係るアウターミラーは、ミラーベース 10 に発光ユニット 20 が設けられているので、ミラーハウジング 30 の位置（格納位置、使用位置）にかかわらず、常にウインカー又はハザードランプとしての機能を発揮する。

【0044】

なお、前記した各実施形態では、アウターミラーをウインカーやハザードランプとして機能させる場合を例示したが、例えば図示は省略するが、ベース側レンズカバーをミラーベース 10 の後面にのみ配置してストップランプとして機能させてもよい。さらに、ミラーベース 10 のベース本体 11 の底壁 11b にレンズカバーを装着すれば、足元やドアノブ付近を照らす照射ランプとして機能させることもできる。また、図 3 に示すミラーベース 10 のカバー 12 を透明又は半透明の部材で構成し、このカバー 12 をベース側レンズカバーとしてもよい。

【0045】

また、前記した各実施形態では、図 2 に示すように、ミラーベース 10 はベース本体 11 とカバー 12 とから構成されていたが、これに限定されることはなく、例えば、図 5 に示すミラーベース 10' のように、ベース本体 11' とカバー 12 と取付板 15 とから構成されたものであってもよい。また、ベース本体 11' と取付板 15 とは、一体に成形されている。この場合、取付板 15 をサイドドア S1 の取付座 S11 に固定することで、アウターミラーが車体 S に取り付けられる。

【0046】

さらに、前記した各実施形態では、図 1 および図 4 に示すように、ベース側レンズカバー 21 と発光体 22 とから構成された発光ユニット 20 をミラーベース 10 に設けたが、これに限定されることはなく、例えば、図 5 に示すミラーベース 10' のように、ベース側レンズカバー 21' のみをベース本体 11' に取り付け、取付板 15 の裏面側に発光体 22' を設けてもよい。また、図示は省略するが、発光体をミラーベース 10' に設けずに、サイドドア S1 の取付座 S11

に設けてもよい。

【0047】

また、前記した各実施形態に係るアウターミラーは、電動格納式であったが、これに限定されることはなく、手動格納式や固定式のものであっても差し支えない。

【0048】

【発明の効果】

本発明のアウターミラーによると、ミラーハウジングの上側に位置するミラーベースにベース側レンズカバーが設けられているので、ミラーベース又は車体に設けられた発光体から照射される光の視認性が格段に向上する。また、発光体がミラーベース又は車体に設けられ、この発光体に電力を供給するためのワイヤーハーネスをミラーハウジングまで配索する必要がないので、組立作業が容易になる。また、発光体用のワイヤーハーネスを配索するに際し、ミラーハウジングを支持するシャフトに当該発光体用のワイヤーハーネスを挿通する必要がないので、シャフトの内径やシャフトに挿通されている他のワイヤーハーネスの太さや本数を考慮する必要がなく、したがって、当該他のワイヤーハーネスの太さや本数を制限する必要もない。すなわち、ミラーハウジング内に組み込まれている他の部品の機能を制限することなく、ウinkerやハザードランプ等の機能を付加することができる。

【図面の簡単な説明】

- 【図1】 第一の実施形態に係るアウターミラーを示す斜視図である。
- 【図2】 第一の実施形態に係るアウターミラーを示す分解斜視図である。
- 【図3】 (a) (b) はアウターミラーの配置例を示す平面図である。
- 【図4】 第二の実施形態に係るアウターミラーを示す斜視図である。
- 【図5】 ミラーベースの変形例を示す斜視図である。
- 【図6】 従来のアウターミラーを示す分解斜視図である。

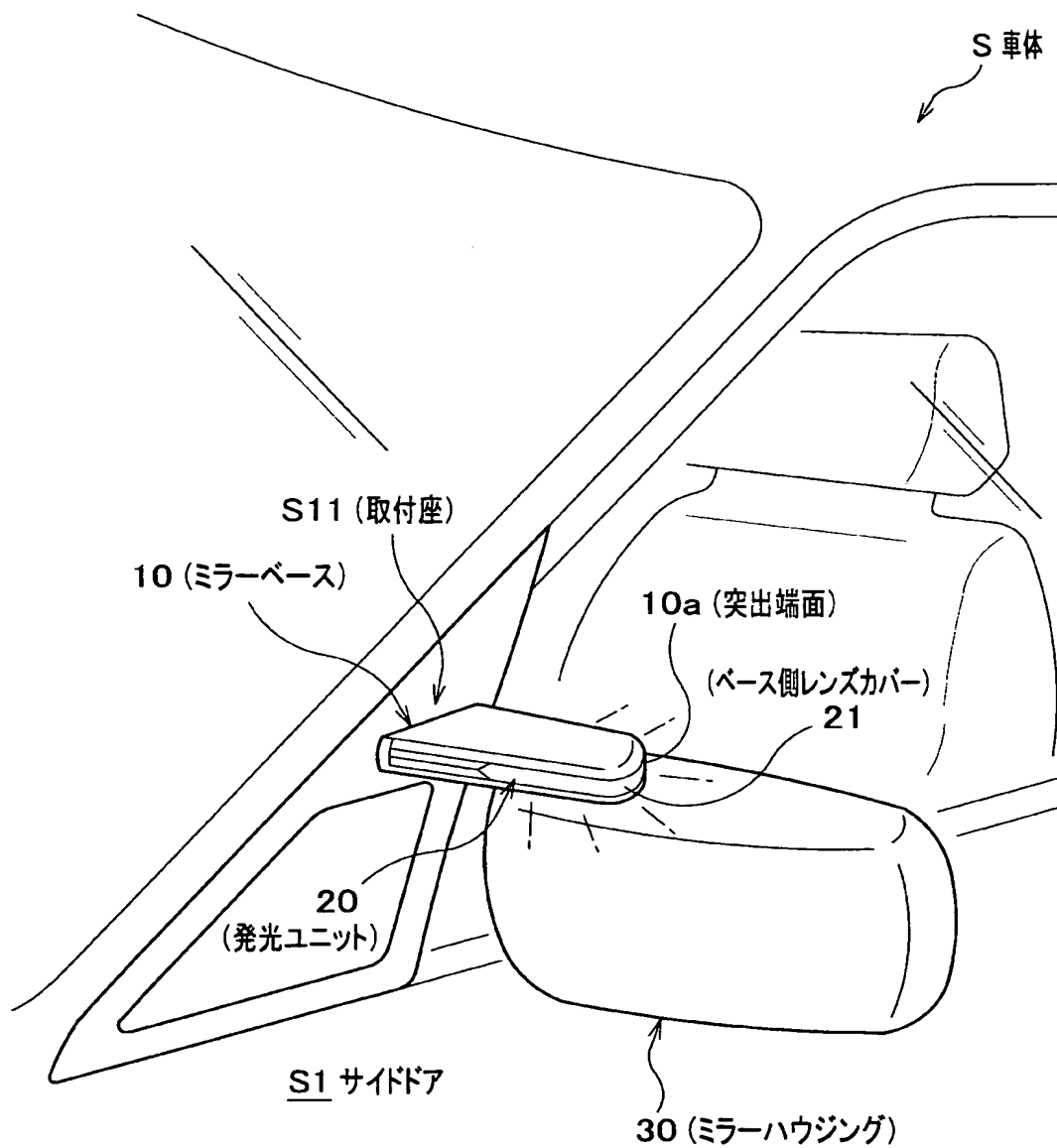
【符号の説明】

- 10 ミラーベース
- 20 発光ユニット

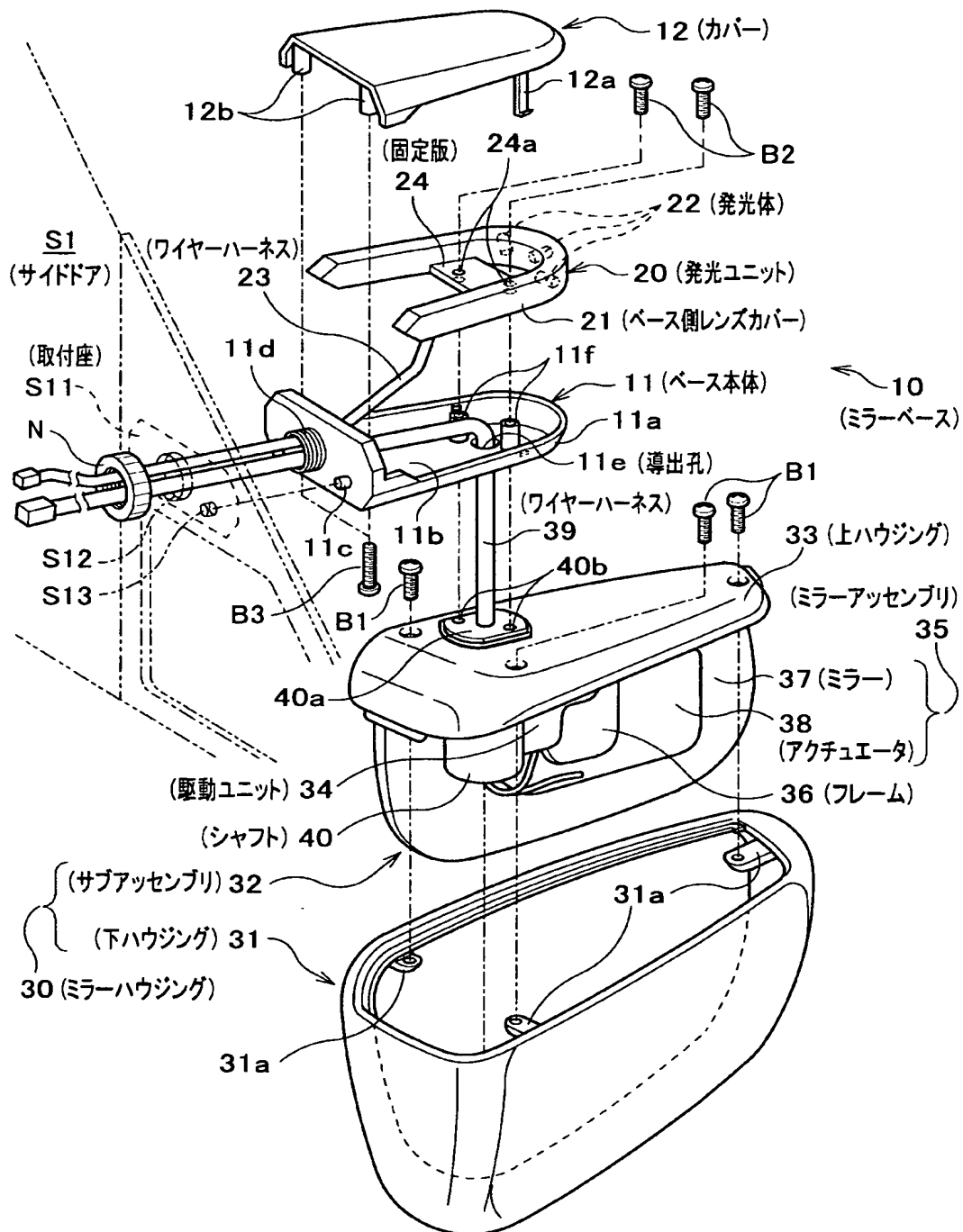
- 2 1 ベース側レンズカバー
- 2 2 発光体
- 2 5 ハウジング側レンズカバー
- 3 0 ミラーハウジング
- 3 1 下ハウジング
- 3 2 サブアッセンブリ
- 3 3 上ハウジング
- 3 4 駆動ユニット
- 3 5 ミラーアッセンブリ
- 3 6 フレーム
- 3 7 ミラー
- 3 8 アクチュエータ
- 4 0 シャフト
- S 車体

【書類名】 図面

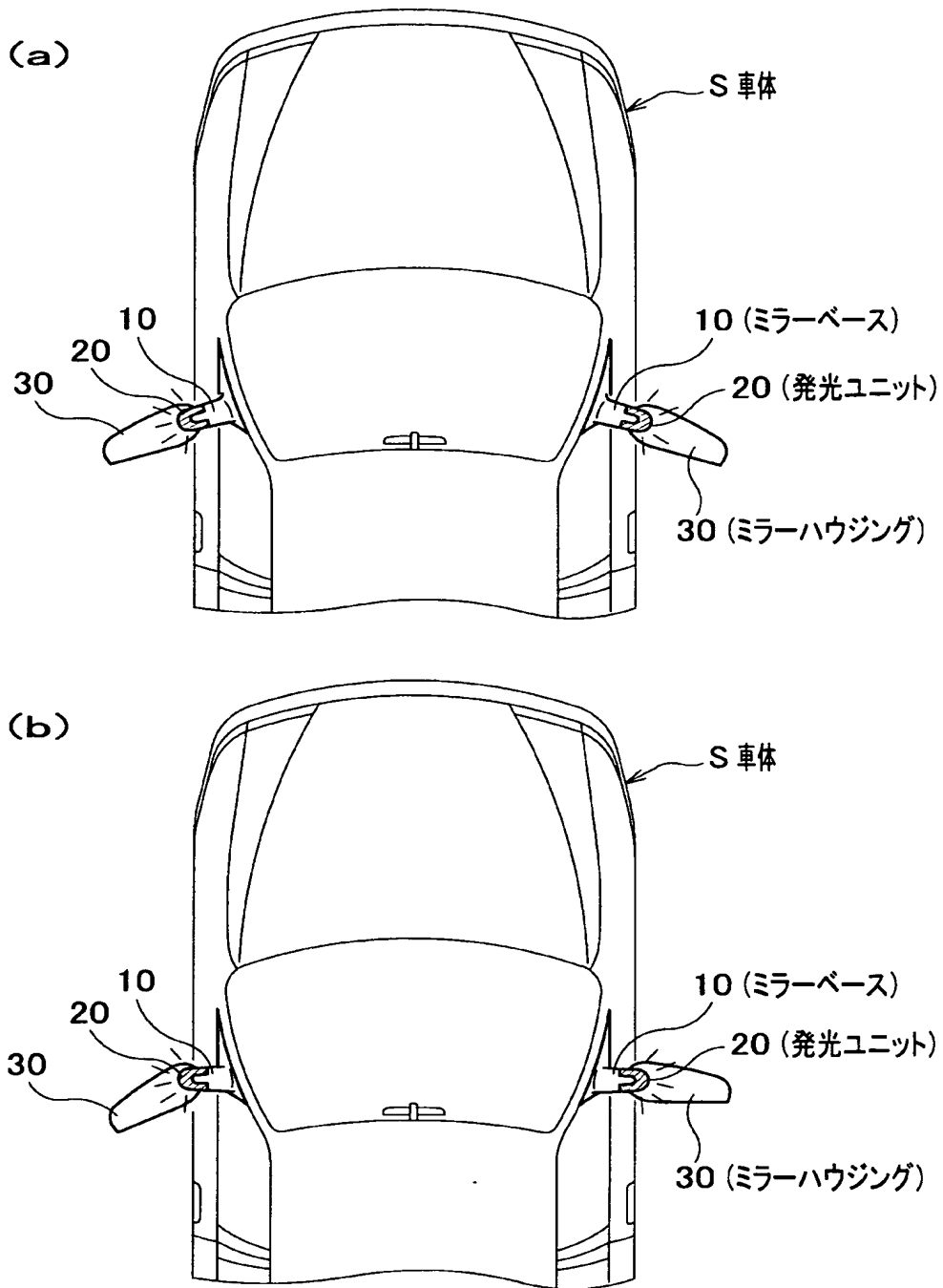
【図 1】



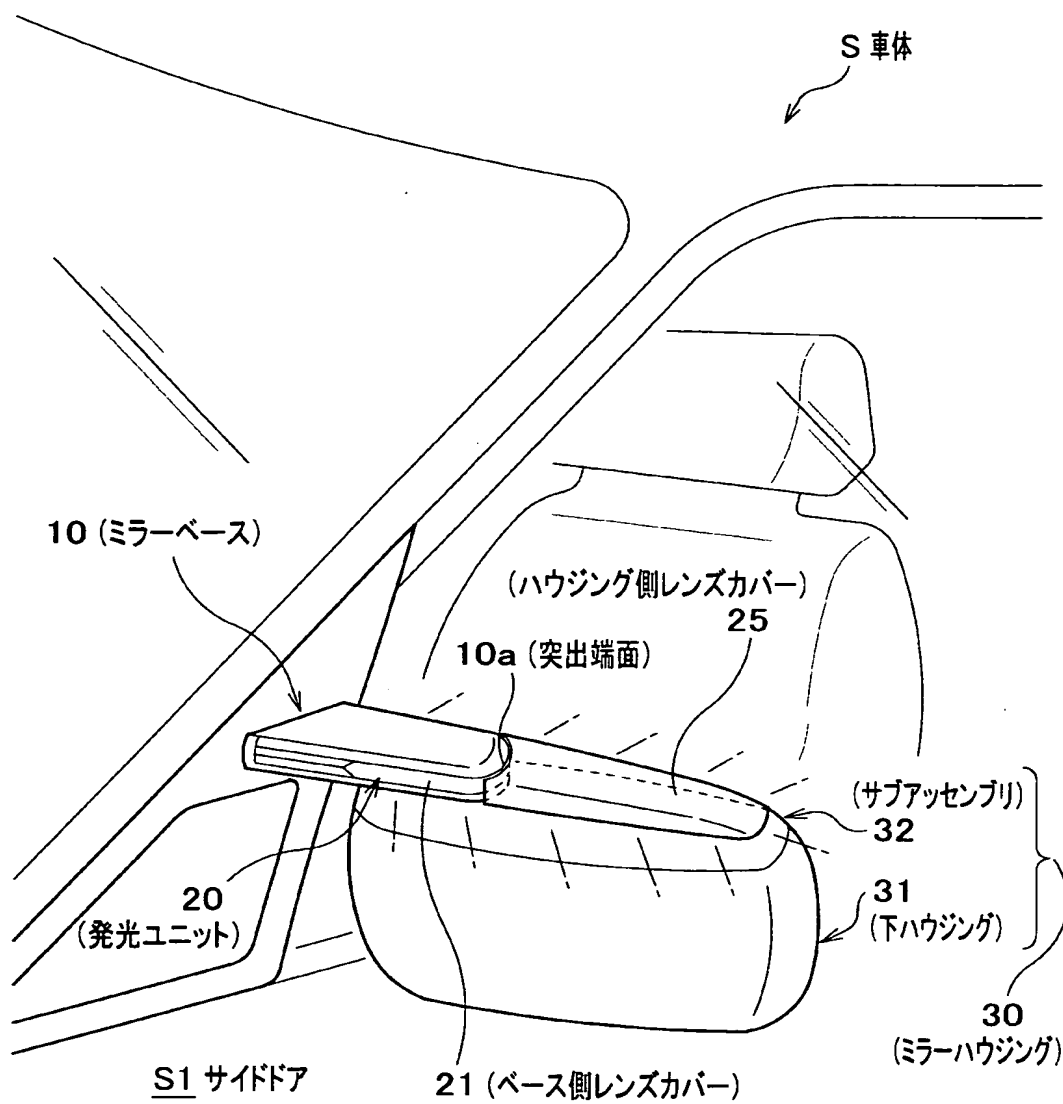
【図 2】



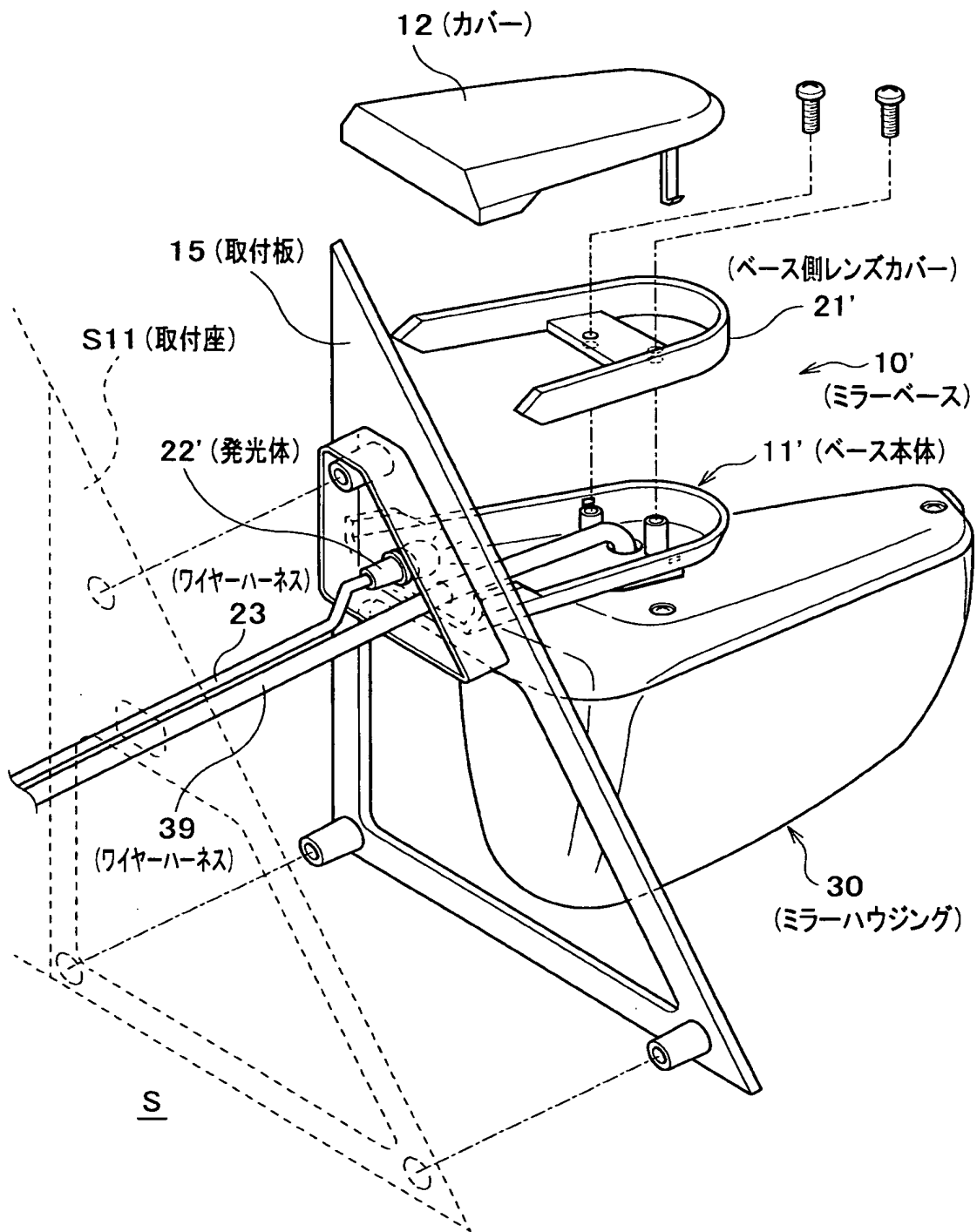
【図 3】



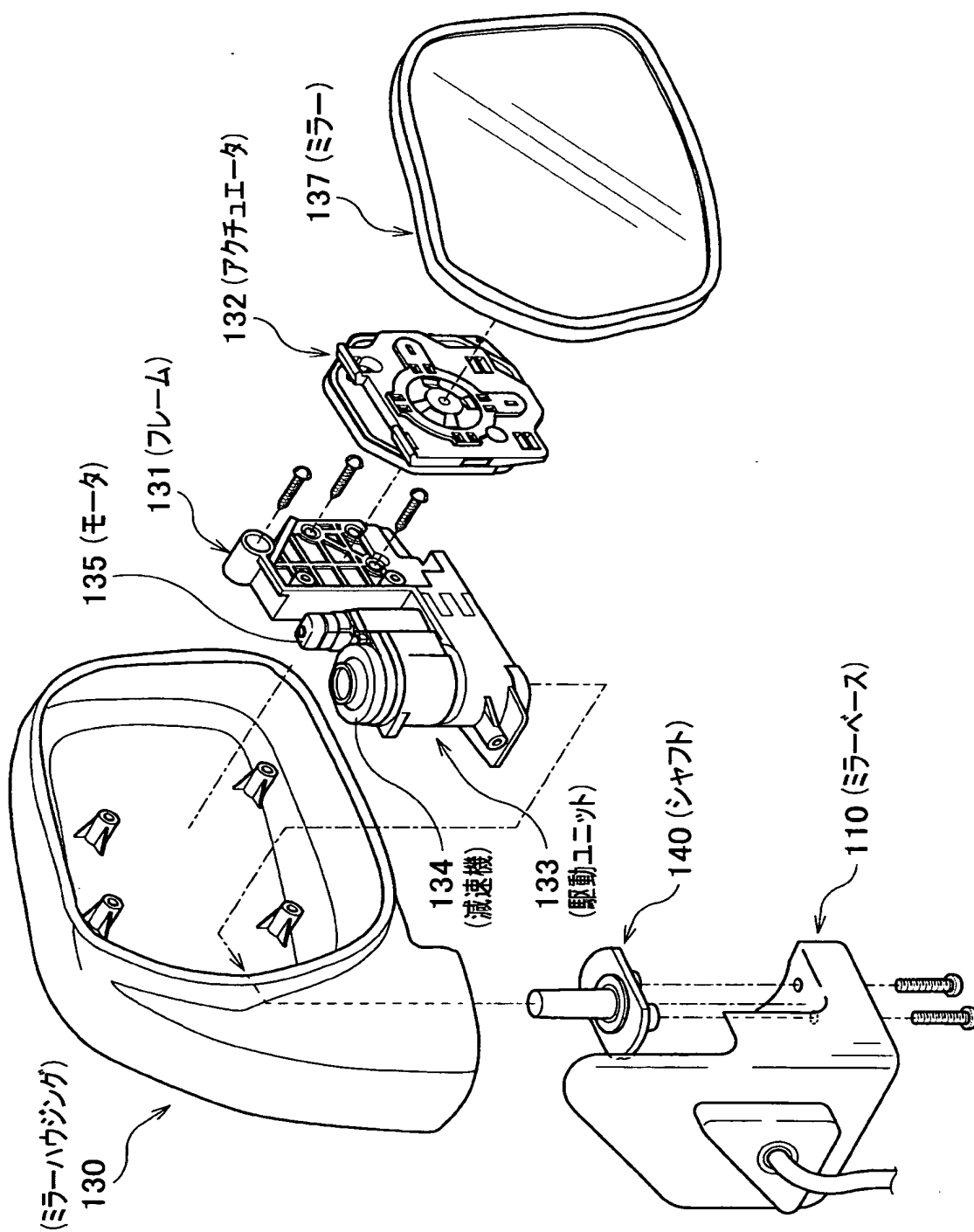
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ウインカーやストップランプなどの照明装置が装着されているアウターミラーであって、ミラーハウジング内に組み込まれる各種部品の機能を制限する必要がなく、かつ、容易に組み立てることができるアウターミラーを提供すること。

【解決手段】 車体 S の側面からその側方に向かって張り出すミラーベース 10 と、このミラーベース 10 に吊設されるミラーハウジング 30 とでアウターミラーを構成するとともに、ミラーベース 10 に、発光体とこの発光体から照射される光を拡散するベース側レンズカバー 21 とからなる発光ユニット 20 を設ける。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2002-370128
受付番号	50201937752
書類名	特許願
担当官	神田 美恵 7397
作成日	平成 15 年 2 月 26 日

< 認定情報・付加情報 >

【特許出願人】

【識別番号】	000148689
【住所又は居所】	静岡県静岡市宮本町 12 番 25 号
【氏名又は名称】	株式会社村上開明堂

【代理人】

【識別番号】	100113125
【住所又は居所】	東京都千代田区平河町 2 丁目 7 番 4 号 砂防会館 別館内 磯野国際特許商標事務所

【氏名又は名称】	須崎 正士
----------	-------

【代理人】

【識別番号】	100064414
【住所又は居所】	東京都千代田区平河町 2 丁目 7 番 4 号 砂防会館 別館内 磯野国際特許商標事務所

【氏名又は名称】	磯野 道造
----------	-------

次頁無

特願 2 0 0 2 - 3 7 0 1 2 8

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 1 4 8 6 8 9]

1 . 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 2 日

[変更理由]

新規登録

住 所

静岡県静岡市宮本町 1 2 番 2 5 号

氏 名

株式会社村上開明堂